平成29年度 自己評価表

鳥取県立鳥取西高等学校

教育目標	藩校「尚徳館」の「文武併進」の精神を受け継ぎ、高い志を持ち、幅広い教養を身につけ、社会の進歩・発展に貢献する創造性豊かな人間を育成する。	今年度の重点目標	「深い学び」「幅広い学び」による高い進路目標の実現 ・学問の奥深さに触れ、深く学ぶことの喜びを実感できる授業を研究・実践する。 ・生徒の能力を引き出し、高い進路目標を実現するための施策を徹底する。 ・生徒の良識を培い、社会性を高めるための指導を推進する。 ・学習と部活動の両立を支援し、スポーツ・文化芸術活動の充実を図る。 ・スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業を組織的に推進する。
中長期目標	1 生徒が学問の意義に目覚め、深く学ぶことの喜びを実感できる質の高い教育を推進する。 2 生徒が確かな学力を身に付け、自己の将来像を描き、進路目標を実現できる教育を推進する。 3 生徒に良識を培い、自律と規範、自立と共生の精神を涵養することによって、社会のリーダーとなる素養を育てる。 4 教科の学習とともに、部活動や学校行事などの体験的活動への積極的参加を通じ、知徳体のバランスのとれた人間の育成を図る。		

評価基準 A:十分達成〔100%〕 B:概ね達成〔80%程度〕 C:変化の兆し〔60%程度〕 D:まだ不十分〔40%程度〕 E:目標・方策の見直し〔30%以下〕

年度当初				評価結果(2月)			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
深く学ぶことの喜びを実感できる授業の研究・実践	○奥深く魅力的な知の世界に触れる機会を充実させる。 ○生徒相互の刺激により、切磋琢磨しつつ成長できる機会を増やす。	○各教科でアクティブラーニングが浸透、図書館との連携も進み、主体的な学びを促す授業実践が積みあがってきている。 ○「思索と表現」をはじめとしたSGH事業への取り組みにより、分析力・考察力が育ちつつあり、互いに議論し、解決方法を提案しようとする姿勢が見受けられる。 ○生徒の知的活動を支援する態勢を整え、積極的に高校生フォーラム、科学の甲子園、エコノミクス甲子園等の各種大会・コンテストに参加している。	○日常の授業に探究活動を取り入れるなど、学問の奥深さに触れる質の高い授業を展開する。「学習の深まりとともに、自ら学ぶ意欲が高まった」生徒の割合(アンケート)を90%以上に高める。 ○SGH事業を有効に活用し、より多くの生徒が主体的に知的活動に取り組むよう、「思索と表現」の内容を充実する。 ○生徒への情報提供を継続し、各種大会・コンテストに積極的に参加するよう支援態勢を強化する。	○探究活動や知的交流の指導方法や実践の共有を進め、全教科を通じて知の世界の豊かさに触れ、生徒相互の刺激による深まりのある授業を展開する ○「思索と表現」の実践の蓄積を生かし、探究心や知的好奇心を刺激して、課題発見力や批判的思考力を育てる活動へと深化させる。 ○科学オリンピック、科学の甲子園、国際交流などへの情報提供を継続し、生徒の積極的な参加を支援するとともに、知の交流の場としての図書館活動や芸術活動を充実させる。	○グループでの実験・観察、ICTや図書館の活用などを取り入れた探究的な活動により、生徒たちが知的好奇心をもって主体的に学習していくように、指導を行っている。「学習の深まりとともに、自ら学ぶ意欲が高まった」生徒の割合(アンケート)は79%。 ○「思索と表現」等のSGHに関わる事業の取り組みや、進路研究を通して社会への関心や問題意識を高め、グループで議論し、問題解決を図ろうとする姿がみられる。 ○模擬国連、理数課題研究発表会、科学の甲子園やIT選手権、エコノミクス甲子園をはじめとした各種大会・コンテストに積極的に参加しようとする生徒が増えている。	B	○教員単独の指導以外にも、大学や企業、公的機関等と連携した授業実践や教材研究の推進や、生徒の知的活動を支援する態勢に引き続き努める。 ○到達点がわかるようにルーブリックを改善するとともに、生徒・教員の変化がより詳細にわかるような評価指標を検討する。また、探究学習や知的交流の手法について、生徒・職員が情報共有し協議できる機会を増やす。 ○情報提供だけでなく、成果の発信にも努め、中間の活躍がより多くの生徒の刺激となるような環境を整備する。
高い進路目標を実現するための施策の徹底	○生徒の優れた能力を引き出すための授業の改善に取り組む。 ○高い進路目標に向かう姿勢と態度を育むための取組を充実させる。	○教科指導を中心に各種研修会・学会等に参加し、研究授業も行って指導力の向上に努めるとともに、協同的・探究的な手法を取り入れた授業実践を積み上げ、主体的・自律的学びを促している。 ○きめ細やかな面接指導を基盤としながら、生徒の学習意欲向上・進路意識の育成に努めるとともに、自宅学習の状況を把握し、生活全般への目配りをしながら、指導に役立てている。	○各種研究会・学会等に参加して得た成果を確実にフィードバックし、教科全体の指導力向上につなげる。 ○高い学習到達目標を設定し、生徒の知的好奇心に訴え、内発的な動機を高める授業を実践する。日常の授業に協同的・探究的な活動を取り入れ、発展的な学習に主体的に取り組む生徒を育成する。「授業を受けて科目への興味・関心が高くなった」生徒の割合(アンケート)を80%以上に高める。 ○3年間を見通した進路シラバスに基づいた、きめ細かな指導により生徒の学習意欲を引き出し、高い進路目標を持ち自律的に学習に取り組む生徒を育成する。	○各種研究会・学会等に参加して得た成果を共有するとともに、実際の学習指導における生徒の能力を引き出す実践の交流を推進する。 ○授業でのグループ活動や討議を取り入れつつ、個々で行う活動や学習に接続させる指導を工夫する。また、実験・実習や創作活動により思考力や表現力を高める。 ○進路志望調査や面接を通して生徒の進路意識を揺さぶり、より高い目標に向かう姿勢と態度を持てるよう指導する。 ○自宅学習時間調査を活用して、学習時間を確保するとともに、教科の枠を超えて教員間の連携を図り、自律的で充実した学習ができるように指導する。	○各種研修会で学習理論や指導法について研究し、その成果を教科で共有し、授業に取り入れ、校内でも意見交換が積極的となっている。「授業を受けて科目への興味・関心が高くなった」生徒の割合(アンケート)は79%。前期よりも5%高まった。 ○個の活動とグループ活動を柔軟に取り入れた授業を行うとともに、互いの授業を参観し合い、生徒の能力を引き出す授業の在り方について模索し合った。 ○継続的な面接指導や教科指導、講演会や座談会、進路LHRや集会等を利用した啓発等により生徒たちの高い志望をある程度維持し、生徒の現状を把握しながら、鼓舞し続けることができた。 ○自宅学習時間の結果を利用し、教科間での学習時間バランスの是正に努めた。	C	○内発的な動機を高め、主体的に学習する授業の在り方について、引き続き研究するとともに、研究会や研修会での内容を還元する機会を増やす。 ○生徒同士が刺激し合い、学習内容をつなげながら人間観や世界観を深める授業、自ら問題点を発見したり批判したりする授業の在り方について、引き続き研究する。 ○学年の枠を超えた繋がりを形成することで「西高の伝統や使命」を自覚させる場を積極的に設定する。 ○自宅学習時間調査については、引き続き、指導側の学習量提示の適否を見るという観点も大事にしながら活用していく。
良識を培い、社会性を高めるための指導の推進	○全員を良識、基本的生活習慣の身に着いた西高生にする。 ○他者と積極的にかかわる豊かな人間関係づくりを推進する。	○職員の共通理解に基づいた指導により、生徒は節度と良識ある学校生活ができています。あいさつ運動や部活動、各種行事の取り組みを通して、多くの生徒が規則を守り、落ち着いた学校生活を送っている。 ○SGH事業での縦割り活動や学校行事、学級活動など様々な場面で、学びや気づきを促す活動を通じて多様で健全なもの考え方を育み、豊かな人間関係を築いてきている。さらに、学年を超えた自主的活動や集団活動の一層の活性化が望まれる。	○節度と良識を持ち、多様な人間関係づくりのできる感性豊かな人材を育成する。「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」生徒の割合(アンケート)を90%以上に高める。 ○心身の健康を適切に管理・改善していく力を育成する。 ○SGH事業の「思索と表現」や海外交流、校内外の各種行事などの多様な活動への参加を通じて、リーダーとしての資質やコミュニケーション能力を育てる。	○日常の些細な変化を見逃さず、全職員が連携して指導に当たり、自律的に生活できる生徒を育成する。 ○健康教育の場としての保健室の役割を充実させるとともに、面談やhyper-QUアンケートの活用により生徒理解に努め、個に応じた相談活動を行う。 ○生徒会活動や「思索と表現」などにより生徒の主体的、協同的、創造的な活動を促し、校内外の多様な他者との関わりを通して、他者と協働する力を高め、指導力を発揮できる生徒を育成する。 ○家庭・地域と連携しながら、人権が尊重される社会の担い手として必要な資質・能力を身に付けた生徒を育成する。	○全体としては落ち着いた学校生活が送れているが、一部、スマートフォンの利用についてのトラブルや、自転車の登下校時のマナーについて課題がある。「規則やきまりを守り、けじめのある生活をしている」生徒の割合(アンケート)は85% ○教育相談委員会、事例検討会やhyper-QUの活用を通して、学年や保健室との情報共有を進め、連携を図りながら生徒の健康管理に取り組んでいる。 ○各種行事において、様々な仲間たちと接していく中で、他者と協働し、指導力を発揮する場面も増えている。 ○人権教育LHRや講演会を通して、人権を尊重するための知識・技能・態度の育成を図った	B	○スマートフォンの利用方法や交通マナーについて、継続的に注意を促す必要がある。 ○保健室・相談室および家庭との連携をより密にする。また、年度をまたいだ情報共有の精度を上げ、丁寧かつ迅速な対応を心掛ける。 ○多くの生徒が、クラスや学校全体の活動に主体的に参加できるような工夫が必要である。また、多くの生徒があいさつの重要性を感じているので、生徒会執行部を中心としたあいさつ運動をさらに活発化するようにする。 ○人権教育LHR等の内容及び展開、評価の在り方について、引き続き研究を行う。
学習と部活動の両立と、スポーツ・文化芸術活動の充実	○全員が学習と部活動を両立できるための指導を推進し、環境を整える。 ○スポーツ・文化芸術活動の充実を図り、豊かな人間形成をめざす。	○制約が多い中で、運動部・文化部ともに自律的・積極的に活動しており、その経験を他生徒に還元しようとする意識が高まっている。学習と部活動の相乗効果が高まるような一層の工夫が必要である。 ○教科学習や部活動において芸術文化活動に積極的に取り組んでいる。また、図書館活動において、芸術・文化活動に触れ、情報発信することで学校の活性化を図っている。	○学習と部活動の両立を図り、部活動や学校行事を通じて、心身を鍛え、バランスのとれた豊かな感性を育成する。「学習と部活動の両立ができています」生徒の割合(アンケート)を80%以上に高める。 ○芸術における創作・鑑賞活動を通じて、豊かな感性と創造的な表現力、芸術活動への意欲・関心を育てる。また、多様な文化活動に積極的に参加する生徒を育成する。	○生徒の実態を把握し、学習と部活動の両立と心身の健康な成長を支援する。また、部活動終了時間を遵守させる。 ○各部の上位大会への出場をめざし、互いを尊重しながら高め合う態度を育てる。また、その経験を他の生徒へ還元する機会を増やし、個々の生徒が成長する環境の整備に努める。 ○多様で優れた芸術文化に触れる機会を増やすことで、豊かな感性を養うとともに表現能力を高める。	○学業と部活動の両立や、自律的な生活を送るよう働きかけており、頑張っている生徒がいる一方で、学業が疎かになりがちな生徒も見られる。「学習と部活動の両立ができています」生徒の割合(アンケート)は75%。 ○校舎改築によって徐々に環境が整えられてきており昨年よりも多くの部活動が上位大会への進出を果たし、その経験を他の生徒に還元しようとする意識が高まっている。 ○優れた芸術文化に触れるプログラムが年間行事の中に複数回位置づけられている。	B	○自律的な生活を送るよう指導するとともに、土日や長期休業中の活動状況の見直しも部顧問、保護者との連携を強化して学業と部活動が両立できるように取組を徹底する。 ○学年で生徒が上位大会や知的交流行事での経験を報告する場を増やし、他の生徒の刺激となる場を作る。 ○音楽ホールの活用について検討し、芸術文化に触れる機会の充実を図る。